

「中津川小学校の横瀬棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

霧島市立中津川小学校

2 学年・人数

2年生2人，3年生2人，4年生2人，5年生3人，6年生4人（計13人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年9月26日（月） 総合的な学習の時間（本校体育館）
令和4年10月3日（月） 総合的な学習の時間（本校体育館）
令和4年10月17日（月） 総合的な学習の時間（本校体育館）
令和4年10月20日（木） ナイター練習18：00～（本校体育館・校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和4年10月20日（木） 保育園・地区自治公民館合同秋季運動会
（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

横瀬棒踊り（よこせぼうおどり）

(2) 由来

横瀬棒踊りの起源は、江戸時代中期、摂津国の大社の祭司が霧島神宮改築の時に奉納した踊りといわれている。それを明治初期に横瀬地区の有志が五穀豊穰を祈願するために伝承、奉納していたが、青年層の減少により途絶えたため平成10年に保存会・後援会を組織し、現在に至る。

(3) 構成等

踊り手10人（6人を1組とする）、歌い手4人で構成され、白はちまき、ゆかた、白ももひき、わらじ、たすき掛けで五色の幟を立てて踊る。踊り手が鎌、木刀を勢いよく打ち合わせる音は、厄を払い、無病息災・五穀豊穰を祈るためと伝えられている。

5 保存会や地域との連携の具体

平成10年に組織された保存会と連携し、平成14年から学校での教育活動の一環として伝承活動に取り組んでいる。また、平成28年度に「かごしま地域塾」として登録し、平成30年度には優れた地域塾として認証された。

具体的な活動としては、2年生以上の児童が総合的な学習の時間等に保存会の方々の指導を受けながら、棒踊りの起源・由来や踊りの所作等について学習する。年間3～4回の練習、大運動会等、発表の場では、保存会、保護者の協力を得て道具の準備、着付けを行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域に伝わる郷土芸能「横瀬棒踊り」を教育活動の一環として活用することで、地域への誇りや愛着，年長者への尊敬・感謝の念を育てることができる。具体的な取組の工夫として以下の点が挙げられる。

- 年長者から年少者への伝承・・・上級生が下級生に教える場の設定
- 郷土芸能を広く知らせる場の設定・・・各種イベント等での披露
- 学校ホームページに「R1.10.5に放映されたMBC番組ふるさとかごしまーふるさとを見つめ、ふるさとを学ぶ！～かごしま地域塾～」の紹介動画を視聴できるようにしている。

7 取組の様子



保存会メンバーによる指導



着付け指導後のナイター練習



合同運動会での発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【教職員】

伝統芸能を受け継ぐことは、素晴らしいことである。今年度も無事に棒踊りを披露することができてよかった。これからも、子供たちに伝統行事や芸能のよさを学んでほしい。しかし、6人1組で踊るのは、児童数減により年々難しくなっている。地域塾等を活用し、地域の中で伝統を受け継ぎながら、一緒に踊るなど方法を探っていきたい。

【保存会代表】

子供たちが一生懸命練習に取り組み、踊ってくれることが大変嬉しい。しかし、年々、児童数減少により踊りの担い手が減っていくことを実感している。小学校の授業の一環として取り組んでいることが貴重な文化財の伝承につながっているが、保存会のメンバーも高齢化してきているので、子供たちに教える次の世代を確保することが今後の課題である。